

「佐潟周辺自然環境保全計画（案）」に対する パブリックコメントに寄せられたご意見及び市の考え方

No.	該当箇所	ご意見の概要	ご意見に対する市の考え方	案の修正
1	表紙	佐潟周辺自然環境保全計画（案）に（第4期）を入れては如何か。	本計画はこれまで2回計画を改定しており、次期計画が第4期となります。これまでの計画と区別するため、ご意見のとおり第4期の文字を追記します。	あり
2	P1、3～4行 P10、3～6行	潟環境研究所ニュースレター2018.12月号、「みんなの潟学」P12、13にある新しい知見に踏まえて専門家に書き直してもらったらいかがですか。	ご意見のとおり文章を修正のうえ、修正内容を専門家から確認していただきました。なお、資料編の注釈に出典元を記載します。	あり
3	P6、2行 P38、「背景」	昨秋ガビチョウ（緊急対策外来種）の幼鳥1羽見つかったそうです。（地元で活動する団体からの情報として）	鳥類目録の出典は、これまでに発表された報告書をもとに掲載しています。ご意見の種類は、今後追加種として報告書などで発表された際に反映いたします。また、38ページに関しては、今後の動向を踏まえて対策を考えていきます。	なし
4	P6、11行	毎年ではないので、「確認される年もあります。」	ご意見のとおり毎年ではないため、「毎年」を削除しました。	あり
5	P8、12行	「持ち込まれたアオマツムシや国内移入種と～」	ご意見をいただいたアオマツムシを追加して記載するにあたり、原文のまま記載すると「アオマツムシがタブノキの植栽により侵入した」と誤解を与える可能性もありますので、アオマツムシの挿入箇所を変え、「アオマツムシやタブノキの植栽により～」として追記しました。	あり

No.	該当箇所	ご意見の概要	ご意見に対する市の考え方	案の修正
6	P9、「オ」	「～されています。外来種では、緊急対策外来種の本ネコ、重点対策外来種の本クビシン(近隣地域)が確認されています。～有隣目・カメ目の2目」 https://ja.wikipedia.org/wiki/爬虫類	本ネコは島しょ地域などの閉鎖空間で他の種類に大きな影響を与える際に問題とされますが、佐潟では自然環境への影響が大きいとまでは判断できないため記載はしないこととします。また、本クビシンも近隣地域ということで生態系に関する具体的な被害が不明のため記載を見送ります。 は虫類の目数については、ご意見のとおり修正しました。	あり
7	P11、表4	佐潟 20 ラムサールフェスの「佐潟と人々の歩み」を使って下さい。 縄文時代～戦前が必要なら他のところでもいいです。	該当箇所は、佐潟の概要を簡潔に説明しており、ご意見いただいた年表の内容をすべて反映することができません。10 ページ(3)の項目の文章に記載のある内容を分かりやすく表に記載しているため、本文中の記載と整合性をとることとして一部修正しました。	あり
8	P12	潟主がいることについて、地域の研究者に書き加えてもらったらいかがですか。	ご意見のとおり「潟主」制度について追記しました。	あり
9	P15 下3行目	持続可能な開発目標(SDGs)の後に、(図6)と入れるべき。	ご意見のとおり図6を記載します。	あり
10	P23～24	評価を図表で示したのは分かりやすく良かった。	ご意見ありがとうございました。 市民と共に佐潟の自然環境保全と賢明な利用を推進していくためにも、分かりやすい内容となるよう工夫しています。	なし
11	P29	佐潟の将来像(2050年の佐潟)イラスト概要案(設計図)は、これで良いと思う。		なし
12	P.33の表6	「4 質の高い教育をみんなに」の項目として、(3)イ、ウ、(4)イ、「11 住み続けられるまちづくりを」として(1)ア～キ、(2)ア～エ、(3)ア、も含まれるのではないか。	SDGsに関しては、ご意見のあった箇所以外も再度確認し、17のゴールに向けたターゲットを踏まえて、見直しました。	あり

No.	該当箇所	ご意見の概要	ご意見に対する市の考え方	案の修正
13	P36、P54 ほか	将来的には、佐潟と御手洗潟の間、佐潟と海岸林との間も森林など緑地帯として買収し、角田—海岸林—御手洗潟—佐潟と続く「緑の回廊」となる構想を明記することを要望する。 「緑の回廊」は「にいがた命のつながりプラン～新潟市生物多様性地域計画～第4章(ク)と明記されておることから、その具現化の方策を佐潟にて、推薦いたしたい。	「緑の回廊」構想に関しては、ご意見のとおり「にいがた命のつながりプラン」にも記載している重要な取り組みです。具体的な方策については、今後佐潟協議会を通して検討していく必要がありますが、関連する36ページに記載し、取り組みを紹介します。	あり
14	P37 「これまで②」	「～管理区域内等では、5月～11月に1～3回の抜根または機械除草を実施している。」公園の大半は手つかずで、花をつけてからでないと見つけづらい場合咲いてから除草し花を回収するので。	ご意見の趣旨を踏まえ内容を修正しました。	あり
15	P37「外来種の駆除」	「佐潟及び周辺地域で生息～ムグラ、ウシガエル、アカミミガメなどの～。また、来訪者や周辺地域住民への啓発活動も行なう。」例えば、赤塚中学敷地内のオオキンケイギク(特定外来生物)について。	ご意見の趣旨を踏まえ内容を修正しました。	あり
16	P40「今後の」	「～つなげていく。特にカワウに関しては、新潟県カワウ管理計画を基に広域で増加を抑制する取り組みに参加する。」	ご意見の趣旨を踏まえ内容を追記しました。	あり
17	P45「課題」	「林床植生が疎～成長した常緑広葉樹林の林床の整備」今のまま除伐しても蔓やセイタカアワダチソウが復活するだけでは？	緑地帯は、樹木の生長に伴い、現在は樹幹が密な状態となり、林床まで十分な光が入っていない状況です。今後は蔓切りも含めた除伐、間伐といった育林管理を行う時期に来ており、適正な管理を行うことでセイタカアワダチソウが林内に侵入するおそれはないと考えます。	なし

No.	該当箇所	ご意見の概要	ご意見に対する市の考え方	案の修正
18	P45 今後の取り組み	<p>タブノキの植栽は止め、エノキ林の整備を行う。</p> <p>クロマツに代わる樹種として落葉広葉樹のエノキ林を整備してほしい。</p> <p>専門家も潟環境研究所ニュースレター第6号の中で提案されていますが、現在定着しているエノキは、落葉広葉樹で、下草を刈るなどして整備すれば、気持ちの良い散策の場となります。しかし自然にまかせておけば、タブやシイなどの常緑樹に変遷していきます。先生は散策の際、タブノキが増えてきていることを懸念しておられました。常緑樹は暗い森になってしまい、今後の砂丘散策を推進していくためにも、適当でないと考えられます。是非ご検討ください。</p>	<p>ご意見を頂いたタブノキの植栽は、クロマツの松枯れに代わる防砂林や防風林の機能を十分に発揮させる目的で行って来ました。その際に風に強く防砂・防風林として適しているタブノキを植栽してきました。今後は樹木が密植となっている箇所の手入れを行いながら、密閉している樹幹にある程度の光が入るよう除伐・間伐などの育林も必要と考えています。また、今後の植栽については、計画案にもあるように「佐潟周辺の豊かな自然環境を創出できるよう、効果的かつ計画的な緑地帯の整備を行う」としており、実施にあたっては、いただいたご意見を佐潟協議会でご紹介しながら検討を行っていきたいと考えます。</p>	なし
19	P46「背景」	「～上潟や流入水路上流で高く、～」	ご意見の趣旨を踏まえ内容を追記しました。	あり

No.	該当箇所	ご意見の概要	ご意見に対する市の考え方	案の修正
20	P.46	<p>「イ 佐潟の水質を現在より少しでも改善する」について 水質の悪化はアオコの発生に伴い悪臭の原因や生物の減少にもつながり、保全計画そのものを衰退させかねない。 まずは原因を明確にし、効果的な対応を行う必要がある。農地からの地下水が原因であれば、比較的濃度の濃い湧水が出る場所を特定し、それらを潟に入る前に一度集め、窒素やリンを減らしてから流入するようにする。湖底の泥が原因であれば、泥ばきやエアレーションによる汚泥の分解なども考慮する必要がある。</p> <p>現状を明確にし、何をすればどのぐらい効果があり、現在どのぐらい対応できているかを常に共有し、目標を設定することが重要ではないか。</p> <p>自分の力不足ともいえるが、水質改善に係る専門家による調査を依頼し、何をどうすれば良いかを具体的に試案する時期に来ていると感じる。</p>	<p>ご意見の内容に関しては、今後佐潟協議会で共有しながら関係者と議論のうえ、解決策を図っていきたいと考えます。</p>	なし
21	P51「今後の①」	<p>「～佐潟と御手洗潟の結果～」公表してほしいです</p>	<p>ご意見のありました御手洗潟の水質調査結果は、今後報告書などの形で公表していきます。そのため、「佐潟の結果については」の表記を削除いたします。</p>	あり
22	P51「今後の④」	<p>「～必要があり、まず鉄炭団子による方法の見直しを始める。～水門を改修するために、地元関係者の意見を汲みつつ、～構造の水門を設計する。」10年以内にせめて設計までして下さい。</p>	<p>ご意見のありました「鉄炭団子」に関しては、今後自然生態観察園で予備実験等を進めてから潟への応用を検討すべきであるため、具体的な記載は時期尚早と考えます。また、水門に関しては、今後協議会などで議論を深めてから具体化することが必要であると考えます。</p>	なし

No.	該当箇所	ご意見の概要	ご意見に対する市の考え方	案の修正
23	P51	佐潟の水質に窒素が豊富なことを水質調査が明らかにしており、砂丘農業が原因であることが度々論じられておるが、出来るだけ農地への環境負荷を軽減することなしに水質の改善を図られません。佐潟地区の農家世帯への警告を絶えず発することが重要です。	ご意見のとおり水質の改善には、農業関係者との連携が重要です。今後は農業関係者とも話し合いを深めていける様に佐潟協議会の場などを活用しながら連携を強化していきたいと考えます。	なし
24	P51	アオコに関する記述が皆無であり佐潟の大きな難問であります。問題点も見えてはいるはずですが。実態調査後、対策の立案が必要と思われる。	アオコの問題に関しては、ご意見のとおりと考えます。④効果的な水質改善手法の検討・実践の項目に、アオコの問題点及び検討方法について追記しました。	あり
25	P52 「これまで①」	「～水位の計測を行なった。」標準水位に合わせられていません。	該当箇所は記載内容が実状にあっていない点があったため、記載内容を修正しました。	あり
26	P52 「これまで②」	「～確認した。」2012年3月頃以降、1回勝手に動かされていたことがあるだけです。	該当箇所については、様々な関係者の考え方もあり、実行が難しいことを伺っています。しかし、水路の見回り等を定期的に行っている点などから原案のとおりとします。	なし
27	P53 「今後の②」	「～ことや、2010、11年のように夏場低水位になったらミズアオイの大群落が現れたことから、～」	ご意見のミズアオイの事例に関しては、大変興味深い内容ではありますが、ミズアオイの発生には低水位以外の要因も考えられ、科学的な検証が不十分であることから原案のとおりとします。いただいたご意見の内容については、今後佐潟協議会でも検討を行いながら上潟の水位管理を行う際の参考にさせていただきます。	なし

No.	該当箇所	ご意見の概要	ご意見に対する市の考え方	案の修正
28	P54	御手洗潟を本改訂版では環境調査を含めて、保全の方向性が明記されておことは評価されるが、新潟市が誇る「潟」との連携、特に本題の佐潟との関連を考慮すると御手洗潟を佐潟の拡大地として将来的には「ラムサール条約登録湿地」を目指す方向性を明記する。そのためには、現在御手洗潟の一部が外れておる「自然公園法第3種特別地域(P2、図1)を拡大し、御手洗潟の全域が含まれることが必要である。	ラムサール条約湿地の登録拡張に関しては、国際的な基準に合致しているのかどうか、国と協議を行いながら可能性を検討のうえ取り組むべきものと考えますので、計画への具体的な記載は見送ります。しかし、ご意見を頂いた御手洗潟の保全は非常に重要であり、今後は佐潟協議会で議論をしながら、保全方法について検討していきたいと考えます。	なし
29	P57「今後の⑤」	「～必要があり、各関係団体間で異なる意見について、浮き彫り・すりあわせする場を設けることを検討する。」	ご意見の「各団体間の異なる意見」をすり合わせる場が本協議会であることから、原案のとおりとします。	なし
30	P67「今後の①」	「～潟の産物の持続的な生育・育成方法、有効な～」ハスが毎年育つように検討して下さい。	ご意見のありましたハスは、潟の産物として非常に重要であり、今後協議会で対策を検討していきます。	なし
31	P70「今後の①」	「～構築、各関係団体間の交流を図る。」	今後は、潟環境研究所が構築してきたネットワークを充実化させていくことが重要であるため、ご意見の趣旨を踏まえ追記しました。	あり
32	P70	②水と緑のネットワークの推進で、本市の自然環境の魅力を再認識することができる事業を実施する。と有るが、具体的に何を考えているのかを具体的に記載してほしい。	ご意見のとおり具体的な事業名を追記しました。	あり

No.	該当箇所	ご意見の概要	ご意見に対する市の考え方	案の修正
33	P73	<p>佐潟水鳥・湿地センター独自のホームページがございません。</p> <p>スマートホンの普及状況も素晴らしい状況下、是非ホームページの開設により「佐潟の自然の素晴らしさ」を誇示していただきたいです。</p> <p>①冬期間の白鳥・カモたちの越冬地であります。</p> <p>②夏期間は「ミズアオイ」と「オニバス」の開花状況を是非オープンにし、新潟が誇る「潟」を市民が触れるチャンスを提供するセンターへの入館者の目標を設定され、佐潟に関わる全てのステークホルダーである行政機関・諸団体の働きかけを期待いたしましょう。</p>	<p>ご意見のとおり佐潟の広報・PRは重要な取り組みであると考えます。佐潟水鳥・湿地センターでは定期的なハクチョウの飛来状況や観察できる動植物を館内で来館者に向けて情報発信しています。ホームページの開設に関しての具体的な記載は見送ることとしますが、「情報発信力の強化」については、今後の課題として検討していきたいと考えます。</p>	なし
34	資料 12「外来種リスト」	<p>佐潟に生育・生息する生態系被害防止外来種リストをカテゴリー別に載せて下さい。</p>	<p>佐潟の動植物調査に関しては、調査が進んでいる分類群と近年の動向が反映されていない分類群があり、掲載種が豊富な分類群とそうでないものに分かれるため、客観性に欠ける点から掲載を見送りたいと考えます。</p>	なし
35	資料 14「レッドデータブック」	<p>佐潟に生育・生息するレッドデータブック掲載種リストをカテゴリー別に載せて下さい。</p>	<p>しかし、佐潟の動植物相の現状を把握することは非常に重要であり、今後は行政だけではなく、市民団体や有識者のご協力もいただきながら動植物相の解明とリストの充実化を図り、公表が可能な段階となりましたら、何らかの形でお示していきたいと考えます。</p>	なし